昭和 27 年度名古屋市と海部郡蟹江町に於ける蚊族の季節的消長の比較 成田 陽

Narita, Y.: Comparative study on the seasonal distribution of mosquito at Nagoya city and Kanie town of Ama district in 1952

昭和 27 年 5 月より 10 月まで名古屋市内及び海部郡蟹江町の馬舎で、週一回午後 8 時より 30 分間吸虫管で採集した。名古屋市内の蚊族相は総採集数 1765 の中、コガタアカイエカ 944 (53.5%) で圧倒的に多く馬舎侵入蚊の首位。次いでアカイエカ 467 (26.5%)、シナハマダラカ 354 (20%) の順で其の他は僅少である。尙お本年は昨年の 3049 に比し約半数でコガタアカイエカも昨年の 1980 に比し約半減している。海部郡では 2548 の中、シナハマダラカ 1896 (74.4%) で首位。本地方は古来マラリアの侵淫地として知られているが本調査によつてもそのことを実証している。次いでコガタアカイエカ 415 (16.2%)、アカイエカ (9.3%) の順である。

名古屋市に於ける季節的消長 コガタアカイエカ、馬舎侵入蚊の首位。5 月 31 日初見、7 月上旬より激増、8 月 8 日最高の山で昨年と略々同様、7、8 月最盛期、9 月上旬小山を作るも以後直線的に降下 9 月 30 日消失した。アカイエカは 6 月最盛期で下旬が山、7 月以降減少し余り明瞭な山がない。シナハマダラカは 5 月 31 日初見、6 月下旬より増加し 7 月下旬に激増し最高の山は 7 月 31 日で昨年と同様、8 月に入つて激減し 9 月 30 日消失した。

海部郡(水田地帯)に於ける季節的消長 シナハマダラカは馬舎侵入蚊の首位 (74.4%) 7 月下旬より急激に増加し 7 月 30 日が最高の山、最盛期は 7、8 月である。9 月下旬より激減し 10 月中旬消失した。コガタアカイエカは 7 月上旬、8 月中旬、9 月上旬に夫々小さい山を作る。アカイエカは 6 月下旬山を作り 7 月下旬激減し 9 月にやゝ増加するも以後減少した。

大森博士(1951)によれば、福井縣丹生郡の水田地帯の牛舎に於ける調査では、シナハマダラカが 49.48% で水田地帯に於ける本種の多いことを強調しておられるが、愛知縣下海部郡の水田地帯の馬舎でも同様多く 74.4% の高率を示している。岩田博士(1941)、野村博士(1943)も本地方に於けるシナハマダラカの多いことを強調しておられるが、筆者は今回成虫の季節的消長を明らかにした。
〔名古屋市八幡中学〕

昭和 27 年度名古屋市における蚊族の消長と日本脳炎発生との関係 戸谷 徹造

Totani, T.: Relation of the incidence of Japanese B encephalitis and the prevalence of mosquitoes at Nagoya in 1952

余は New-Jersey 型 Light trap を用い昭和 27 年 6 月より 10 月末に到る間に 27 回に亘り蚊の採集を行った。Light trap 設置場所は毎年日本脳炎患者発生の多い千種区内とし夕方から翌朝までかけ放した。以上の間に採集した *Culex tritaeniorhynchus*, *C. pipiens pallens*, 及び *Anopheles hyrcanus sinensis* の雌の総計は 14960 匹であつた。この 3 種の蚊の集計百分率は *C. trit.* 82.2%, *C. pipiens pallens* 9.2%, *A. hyrcanus sinensis* 8.6% であつた。*C. trit.* の山は 7 月下旬に見られこの他 7 月上旬、8 月中旬及び下旬に山が見られ 9 月中旬以後急激に減少した。*C. pipiens pallens* は 7 月上旬、9 月中旬に山が見られ全採集期間中出现した。*A. hyrcanus sinensis* は 7 月中旬、9 月中旬に山が見られた。以上の間において 6 月中旬から 9 月中旬までは *C. trit.* が最も多く採集され、6 月上旬と 9 月中旬以後は *C. pipiens pallens* が多くなつた。両者の消長曲線の交叉は 6 月中旬と 9 月中旬であつた。以上の蚊の消長を平均気温、降水量と比較すると 6 月下旬に気温は 20°C に達したが降雨が多く 6 月 23 日と 7 月 11 日には 174~176 mm に及ぶ大雨があつた。そのため一時的に蚊の発生は少なくなつた。7 月中旬以後は気温も 25°C 以上となり雨もなくこの状態は 9 月始めまで続いた。9 月 5 日以後降雨が多くなり気温の低下と共に蚊は急激に減少した。この間において 7 月 16 日から 9 月 17 日の間に日本脳炎患者が 64 例発生した。その最盛期は 8 月 9 日から 8 月末に到る約 20 日間でこの間に 50 名の患者を見た。患者発生の最初は 7 月 16 日で 7 月 14 日に 176.2 mm に及ぶ豪雨があり 7 月 14 日には気温も 25.3°C と上昇し *C. trit.* も活動期に入り脳炎 virus の感染可能温度に達した後である。又脳炎の最後の患者の発生した 9 月 17 日は急激に *C. trit.* が減少し気温も 9 月 13 日以後 24°C 以下と低下している。

この様に *C. trit.* の発生曲線、日本脳炎患者の発生曲線、気温、降雨量の 4 者の関係は並行するものか今後も観察を続けたい。
〔名古屋市立大医動物〕